



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第86号

2011.3.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

もくじ

お知らせ

ー 2011年度の観察会の予定について

活動報告

ー 芸北の水辺の生き物たち

ー ～北広島町学術調査結果から～

ー かんじきで歩こう！雪の八幡高原

ー 雪原のトレッキング

観察会案内

ー 早春のトレッキング

お知らせ

● 2011年度の観察会の予定について

2010年度は3月の観察会を残し、全部で38回の観察会や活動を企画しました。悪天候でやむなく中止になったものもありましたが、フィールドや室内で専門家の先生方や、地域の方を中心に、さまざまな活動を行いました。2011年度も充実した内容の観察会や調査・保全活動が行えるよう現在計画中です。新たな試みもありそうです。次号の苅尾電波塔にてご案内しますので、お楽しみにお待ちください。ホームページ、ブログ、Twitterでも情報発信をしていますので、ご覧下さい。

高原の自然館：<http://shizenkan.info/>

西中国山地自然史研究会ブログ：

<http://nishishi.exblog.jp/>

Twitter (harappar)：<http://twitter.com/harappar>

観 察 会 報 告

ました。[このやよい]

●芸北の水辺の生き物たち

～北広島町学術調査結果から～

開催日時:2011年2月2日(木)19:00

講師:内藤順一

まだまだ雪の多い中、30名の参加者が文化ホールに集まってくれました。内藤順一先生による水生生物の勉強会も3回目を迎え、今回は「芸北の水辺の生き物たち」と題し、多くの種類の水生動物の紹介から始まりました。スナヤツメ、ゴギ、サツキマス、アマゴなどの北広島町での分布域を地図で見ながら解説していただきました。またアカザ、イシドジョウ、アブラボテ(石鮒)、カジカ、オヤニラミ、カワムツの写真を見ながら、北広島町の川には希少な魚が生息していることを実感しました。

川だけでなく、湿地やため池にすむ生き物もいます。クサガメ、イシガメ、モリアオガエル、ヒキガエル、シュレーゲルアオガエル、そしてサンショウオ類です。見たことある種類からそうではない種類まで、参加者は興味深く話を聞いていました。なかなか見るのできないサンショウオ類の卵のうの写真が映し出されたときには、びっくした様子もうかがえました。

それから1986年に発見されて以来、内藤先生が調査や保全に関わってきたカワシンジュガイのお話も聞きました。最初は33個体だったものが、現在では約1,200個体ほどに増えているそうです。カワシンジュガイの繁殖に欠かせないアマゴとの相利共生の関係、そしてアブラボテとカワシンジュガイの片利共生の関係が、調査が進むうちに解明されたおかげで、芸北の川の多様性が守られています。

内藤先生がお話しされた「当時の地元の方の生物に対する意識の高さが今につながっている」という言葉がとても印象的でした。さらに「命のうけわたしができないと、川からいきものがいなくなる」という言葉の重みがひしひしと伝わってきました。

参加者からもたくさんの質問が飛び出し、現在でも「生物に対する意識」が高いことを感じました。

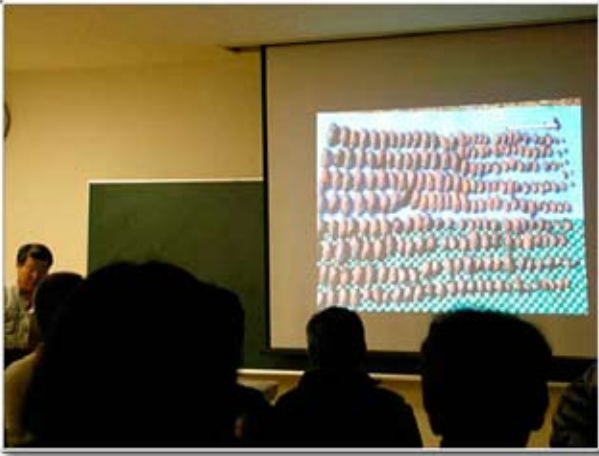
今回学んだことをしっかりと自分たちの財産にして、地元や愛着のある場所で、生き物の環境を見守りたいと感じた、生き物勉強会となり



「芸北の水辺の生き物たち」と題した勉強会の始まり。さて、どんな生き物が登場するのだろうか？



川にすむ色々な生き物の写真を見て、「これはみたことある!」「昔はようけおった」などと会場からも声があがった。



2年前に行ったカワシンジュガイの保護活動も紹介された。



アブラボテはカワシンジュガイの貝の中に産卵する。産卵期のメスは長い産卵管を持っていることも教えていただいた。



日本初のスナヤツメの繁殖行動を撮った写真も紹介。



内藤先生の著書である「太田川水族館」の紹介もあった。高原の自然館で絶賛発売中。



内藤先生の熱心なお話に参加者は熱心に聞き入り、質問も多く飛びだした。

【今回の紹介された芸北の水辺の生き物】

スナヤツメ、ゴギ、サツキマス、アマゴ、アカザ（手っ切り）、イシドジョウ、アブラボテ（石鮒）、カジカ、オヤニラミ、カワムツ、オオサンショウウオ、カスミサンショウウオ、ブチサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、モリアオガエル、シュレーゲルアオガエル、ヒキガエル、クサガメ、イシガメ、カワシンジュガイ

観 察 会 報 告

●かんじきで歩こう！雪の八幡高原

開催日時：2011年2月7日(月)10:00

講師：坂井健作

冬の観察会では初めての平日開催だったにも関わらず、20名の参加者が高原の自然館に集合しました。広島市内や芸北以外の北広島町内から来た参加者は雪の多さに驚きつつも、いろいろのノーシューやかんじきを準備し、雪歩きに意欲をわかせていました。

今回の講師は八幡に住む坂井健作さんです。坂井さんはかんじき作りの達人で、今シーズンは大雪となったため、かんじきの需要がとて多く、制作や取材で忙しくされています。坂井さんが作ったかんじきをはき、脱げないよう履き方もレクチャーしていただき、出発の準備をしました。かんじきを初めてはく参加者からは、「思った以上に軽くて動きやすい！」と声があがりました。

今回の道案内は白川学芸員です。自然館前を出て、水口谷湿原の入り口から「おーいの丘」をめざして歩きます。積雪が2メートルあり、その上を歩くので視点も高くなります。いつもと違う景色なので、とても新鮮でした。いつもなら手が届かない木を触ったり見下ろしたりできるのです。雪原に残されたウサギやタヌキの足跡や、動物のフンを観察したり、イヌザンショウをウサギがかじっていた跡を眺めたり、雪上にいた小さな生き物を見つけ「セツケイカワゲラ」だと教えてもらったりと、発見をするたび歓声をあげながらみんなで歩きました。

「おーいの丘」にあがると広い広い雪原に感動しました。目の前には苜蓿があり、少し先には千町原が広がります。アカマツ林やコナラの話の聞いたり、雪の上にねそべってみたり、記念撮影をしたりと満喫しました。この場所恒例の「おーい」と叫びこだまを楽しむことも忘れてはいけません。

天気もよく、冬ならでの雪の八幡高原をしっかり体で感じた観察会となりました。ノーシューやクロスカントリースキーで雪上を歩いた参加者もいて、それぞれの利便性もわかりました。その中でもかんじきは木とロープだけで作られ、自分の足にあったように制作できるということで、昔の人の知恵のすばらしさがよく

わかったと同時に、「かんじき」をこれからも自分たちの生活の中に残していきたいなあとも感じました。[このやよい]



かんじきの達人、坂井健作さんが今日の講師。



雪の固まりをよーく見ると・・・何がいるんだろう??雪上の小さな昆虫セツケイカワゲラの仲間を発見。



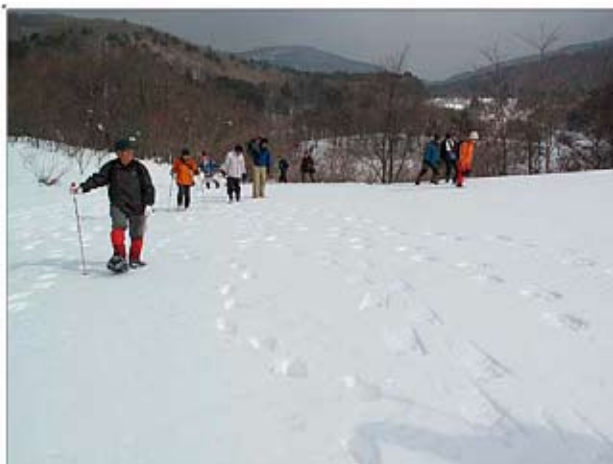
ウサギのあしあとを見つけた。雪深い場所なので、足の指をはっているのがよくわかる。「カンジキウサギの足跡」と命名。



丘の上で記念撮影。「たのしかった！」との声多し。



いつもなら歩けない場所。川に落ちないようにね～。



斜面を登って「おーいの丘」へ。

【みなさんの印象に残った物】

「雪の高さ、かんじきの軽さ」「かんじきサイコーです。雪にうまらないし、かるいしとっても歩きやすかったです」「道ではない所を歩けたこと」「カンジキを履いて初めて歩いたこと」「真白な雪原」「雪の多さ」「やはり雪原です」「2m上を歩けたこと」「クロカンスキーでたくさんこげたこと！」「セッケイカワゲラを雪の中で見つけたこと(2)」「雪輪の軽さ、動きやすさ」「セッケイカワゲラの話」「雪の上にいる虫が雪の中に入っていく瞬間を見れたこと」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「雪の上を歩くのがすごく楽しかったです」「いつもなら見上げる木が、自分と同じ目線にあって感動」「初めての参加でしたが、ぜひ又参加したいです」「暖かく雪原も歩きやすく、色んな動物の足あとが見れて良かった」「カンジキも去年はめげて（壊れて）歩きにくかったのが、坂井さんの工夫で歩きやすく良かったです」「どこでも歩いて楽しかったです」「雪上のセッケイカワゲラに感動！」「セッケイカワゲラ初めて知りました」「子供にもどった気になりますね」「楽しいことのみ多かりき」「雪の上を歩くのは楽しい」「いろいろ話が聞けてよかった」「2m 空中を歩いているのが不思議な感じがした」「臥龍山が2m 低く見えた」「雪のある生活の中で新たな楽しみを体験でき、すごく楽しかった」「久しぶりにカンジキをはいた」「所によって縄の作りが違うことがわかった」

観 察 会 報 告

●雪原のトレッキング

開催日時:2011年2月20日(日)10:00

講師:上野吉雄

1週間前の気温は今季最低のマイナス22℃、積雪は今期最高の207cmを記録した八幡ですが、開催日は薄曇りで風はなく、また、冷え込みも少なく、絶好の観察日和となりました。それでも、自然館周辺には2m近い積雪があり、1週間前に除雪したところに屋根から落雪があり、入口に近寄れない状態でした。「38豪雪」以降50年ぶりの大雪です。今回は15名の参加がありました。講師は昨年に続いて上野先生です。ここ2~3日、春の陽気が続いたので、雪面が融け、アニマルトラッキングにはやや条件が良くありませんが、多くの動物の足跡を観察することができました。哺乳類はタヌキ・ウサギ・キツネ・テンの足跡を観察することができました。前肢と後肢の位置関係から移動の方向が解ること、肉球の数から哺乳類の種がわかること、尾をひきずった痕跡も観察しました。特に、雪面が氷化しているところでは爪跡も観察でき、地面の硬さに合わせて爪を出したり引っ込めたりして使い分けていることが解りました。また、体幅の小さいキツネはほぼ一直線に足跡ができること、体重の少ないテンは足跡の埋まりが少ないこと、ウサギは進行方向に対して、前肢と後肢が逆位置に付くことが印象的でした。雑木林内ではウサギの食痕を観察しました。昨年は積雪が少なかったため地上より1m高いところに食痕がありましたが、今年はそれが実感できる積雪でした。また、糞や放尿の跡もあり、昨夜の行動を想像できるものが多数ありました。溪流脇の雪原では雪虫(雪渓虫)を観察しました。雪上を這い回る小型のカワゲラ・トビケラ・ガガンボ・ユズリカの総称であること、冬の長い中央アルプスでは初夏に出現する種が多いが、八幡では2~3月に観察されること、繁殖のために雪原に現れ、上流に産卵すること、寒冷な環境では翅が小さくなったり、無くなったりすること、セツケイカワゲラは八幡の棲息地がほぼ日本の南限に位置することなどの説明がありました。鳥類ではヤマドリ足跡やエゾユズリハを食べた食痕が印象的でした。エゾユズリハは積雪地帯では数少ない

常緑広葉樹ですが、餌が少なかったのでしょうか、葉脈だけが残っており、自然の厳しさを感じる光景でした。私もかじってみました。葉肉はえぐ味が残る植物でした。また、餌が少ないためか冬鳥は少なく、コガラ2羽・キクイタダキ1羽・アカウソ4羽を確認したのみでした。これらの野鳥は昆虫の卵やアブラムシ等を餌としているので八幡に残れたこと、逆にカンボクやツルウメモドキなどの木の実を食べるツグミやキレンジャクが確認できなかったのは、昨年の夏の厳しさや今季の冬の厳しさが影響しているのだろうということでした。例年に無い、厳しい環境を観察することになった今回の観察会でしたが、この影響が春から夏にかけて動物たちにどのように影響するか、次年度の観察会が楽しみです。[ないとうじゅんいち]



高原の自然館前に集合。雪の多さに広島市内からの参加者は驚いていた。



クロスカントリースキーで参加の八幡っ子。



タヌキの足跡、指の数は4つ。



ヤマドリが食べたエゾユズリハの葉。もとの形がなくなるほど食べていることにびっくり！



こちらはテンの足跡。指の数は5つ。



みわたす限り一面真っ白の雪原となった霧ヶ谷湿原。「湿原の上を歩いているとは・・・」と叫びつつにこやかな参加者たち。

【みなさんの印象に残った物】

「とにかく雪原が広がった」「動物達の足跡に、この雪の中でも生きるのだと感動しました」「積雪量。38年以來の事。アナグマの冬眠の件」「ヤマドリが食べたエゾユズリハの葉(3)」「ヤマドリギや野鳥が少なかった」「積雪の多さで景色が一変していたこと」「いいお天気、雪がいっぱい！空気がおいしい」「一面の銀世界！」「さかですべったこと」「セッケイカワゲラ類の種の多さ」「雪の多さと枝の折れ具合」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「お天気もよくトレッキングには最適でした。」「久しぶりの雪歩きすべてが楽しかったです。鳥が少ないのに残念」「最後に野鳥観察が出来ました！上野先生のわかりやすい説明が良かったです」「自然の偉大さ(自然のサイクルと淘汰の関係)。積雪シーズンしか出来ない体験」「普段よりも高い所が歩けて眺めがよかったです。木の実が全然なくて驚きました」「野生動物が少ないエサで何とか生きのびている様子を感じられた。例年にない大雪に驚きました」「自然の美しさ生き物の大変さ」「鳥が少なかったけれど雪の中でも生きているカワゲラなどを知った」「日頃何も思っ見ていない事をたくさん教えてもらった」「実際に足跡で動物がわかったり、生態を知れてとても勉強になりました。」「天気も晴れ、50年ぶりに大雪経験できておもしろかった」「冬ならではの好きな所が歩けたので楽しかった」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 早春のトレッキング

開催日時：2011年3月19日(土) 10:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：基本セット
定員数：30名
参加費：一般=300円 / 賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

春の兆しを見つけにいくトレッキングです。春を待つ植物や鳥の姿を見ながら歩きましょう。冬と春の両方の季節を感じることでできる機会です。雪が残っている場合は、しっかりと歩ける準備をお願いします。



— インターネット版苅尾電波塔の紹介と購読移行のお願い —

苅尾電波塔はインターネットを利用したe-mailでも発行されています。印刷版と同じ情報が毎月あなたのメールアドレスに届きます。さらにe-mailなら、関連ホームページを見たり、そのまま返事することで観察会の申し込みができたり、とっても便利です。パソコンでe-mailをお使いの方ならどなたでも無料で申し込みができます。まずは高原の自然館ホームページをご覧ください。

高原の自然館ホームページからは、苅尾電波塔(紙版)のpdfファイルをそのままダウンロードできます。郵送している紙版に比べ、鮮やかなカラー写真を見ることができ、ダウンロードしたファイルはご家庭のプリンタを使って印刷することもできます。そこで、高原の自然館では紙版(郵送)からインターネット版への購読移行をお願いしています。今後、紙版の郵送が不要な方は、高原の自然館までご連絡ください。みなさまのご協力をお願いいたします。

【高原の自然館】<http://shizenkan.info/>

この冬の話はとにかく「雪」！何センチ降ったか、除雪の具合はどうか・・・などなど。「サンパチ豪雪以来」という言葉もよく聞きました。冷え込んだ朝、ダイヤモンドダストも何度か見ることができました。自然が織りなす八幡の自然の魅力と猛威をたくさん感じた冬となりました。3月になり、春ももうすぐですが、その前にもうひと降り、ふた降りあるかもれません。(この)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info